



群馬県コンクール 金賞

## 先生いっしょに食べようね

吉岡町立駒寄小学校 2年 高野 有弘

「先生、ぼくのお山もりにしてね！」

ようち園の給食の時間が大すきだった。あつあつごはんをお山みたいによそってもらって、みんなで給食のうたをうたったら、手を合わせていただきます。ぜんぶ食べた子だけに先生の「とくせいしおむすび」がもらえる。年少さんのときぼくの先生は男の先生だったから手がとても大きい。その手で小さな丸いおむすびをいっしょうけんめいつくってくれた。しおをふっていつも同じあじ。だけどあきなかった。食べると元気になったよ。心もね。

五月二十三日、今年もじいじの田んぼの苗うえをした。一ばんたのしみな日。だって大すきなカエルやトンボやバッタがたくさんいるから。みんな田んぼの水をまっていたんだね。

先生もにいがたのおじいちゃんとお父さんがそだてている田んぼがあるんだって言った。先生も、田んぼを見に行きたいだろうな。

八月十日、田んぼのあみはりをした。あついし風もつよくて大へんだった。苗は、田うえのときぼくの中ゆびの長さだったのに今はもうぼくのこしくらいになった。まだお米はみどり色だったけどいっぱいみがなっていた。

みんなまい日食べるお米だけど、かんたんにはそだてられない。一生けんめいそだてたお米なの知ってるから、先生は給食のごはんがのこらないようにおむすびにして、みんなに食べさせてくれたんだね。

そつ園の前、ひさしぶりに先生がおむすびをつくってくれた。年少さんのときよりすごく大きいのを「さいごだね。」と言ってわたしてくれた。ぼくは大きな口でかぶりついた。

秋になってうちのお米がとれたら、つぎはぼくがおむすびをつくってあげる。先生といっしょに食べたいな。さみしいときでもぼくがつくったおむすびを食べたら元気が出るかな。

ぼくも大きくなったら、じいじみたいにおいしいお米をつくるからね。先生まってね。